

平成20年度（第52回）
岩手県教育研究発表会発表資料

キャリア教育

小・中学校における キャリア教育の推進に関する研究

- キャリア教育モデルカリキュラムの作成をとおして -

研究協力校
花巻市立湯口中学校

研究協力員
花巻市立花巻中学校 教諭 宮川 琢夫
花巻市立南城中学校 教諭 鈴木 俊文

平成21年1月6日
岩手県立総合教育センター
教科領域教育担当
佐藤 亥 壱
松 葉 覚
阿部 真由子

《 目 次 》

研究目的	1
研究の方向性	1
研究の年次計画	1
平成20年度の研究内容与方法	1
1 目標	1
2 研究内容与方法	1
3 研究協力校	1
研究結果の分析と考察	2
1 小・中学校におけるキャリア教育の推進に関する基本構想（第1年次研究の概要）	2
（1）キャリア教育学習プログラムの枠組み	2
（2）キャリア教育全体計画	2
（3）キャリア教育年問題材一覧	3
（4）授業プラン	3
2 中学校キャリア教育モデルカリキュラム試案に基づく授業実践（第2年次研究）	4
（1）キャリア教育学習プログラムの枠組みの作成	4
（2）キャリア教育全体計画の作成	5
（3）キャリア教育年問題材一覧	7
3 中学校キャリア教育モデルカリキュラム試案に基づく授業実践例の収集と分析・検討	8
（1）授業プランの作成	8
（2）授業プランの実際と分析・検討	9
4 キャリア教育の評価	11
5 中学校キャリア教育モデルカリキュラムの作成	12
（1）中学校キャリア教育モデルカリキュラム作成の意図	12
（2）中学校キャリア教育モデルカリキュラムの構成と項目	12
6 中学校キャリア教育モデルカリキュラムに関するアンケート調査の分析と考察	13
（1）調査の目的と内容	13
（2）アンケート調査の分析と考察	13
7 小・中学校におけるキャリア教育の推進に関する研究のまとめ	15
（1）成果	15
（2）課題	15
研究のまとめ	16
1 研究の成果	16
2 今後の課題	16

おわりに]

【引用文献】

【参考文献】

研究目的

離職率の高さやフリーター、ニートの問題に見られるように、若者の勤労観・職業観の未熟さや職業人としての基礎的資質・能力の低下等の問題が懸念されている。また、将来の夢をもてず、学ぶ目的や意欲を欠いた子どもたちの増加も指摘されている。このような進路にかかわる諸問題を背景に、児童生徒の発達段階に応じた組織的・系統的なキャリア教育の推進が求められている。

しかしながら小・中学校における現状は、キャリア教育のとらえや指導の在り方に戸惑いや認識のずれが見られるなど、その理解は十分とは言い難い。キャリア教育推進の基盤となる全体計画等のカリキュラム整備も進展していないため、教育課程のどこで、どのような指導を行うかといった指導内容や指導方法が明確になっていないこと、職場体験等の活動が指導の計画性や系統性を欠いた一過性の活動にとどまっていること等の実践上の課題も多く指摘されている。

このような状況を改善し、組織的・系統的なキャリア教育を推進するためには、キャリア教育についての確かな理解に基づいた具体的な指導計画を整備する必要がある。

そこで、本研究は、各校のキャリア教育指導計画作成を支援する資料として、キャリア教育の指導の方向性・具体的な実践事例や指導計画、実践上のポイント等を示したキャリア教育モデルカリキュラムを提示し、小・中学校におけるキャリア教育の推進に役立てようとするものである。

研究の方向性

小・中学校におけるキャリア教育を推進するため、キャリア教育モデルカリキュラムを作成し、提示する。

研究の年次計画

この研究は、平成19年度から平成20年度にわたる2年次研究である。

第1年次（平成19年度）

- (1) 小学校キャリア教育モデルカリキュラム（平成18年度作成）の内容拡充
- (2) 中学校キャリア教育モデルカリキュラム（理論編・実践編・資料編）試案の作成

第2年次（平成20年度）

- (1) 中学校キャリア教育モデルカリキュラム試案に基づく授業実践
- (2) 中学校キャリア教育モデルカリキュラム試案に基づく授業実践例の収集と分析，検討
- (3) 小・中学校キャリア教育モデルカリキュラムの妥当性の検討と作成
- (4) 小・中学校におけるキャリア教育の推進に関する研究のまとめ

平成20年度の研究内容と方法

1 目標

第1年次の研究を基に授業実践を行い、その分析と検討をとおして、中学校キャリア教育モデルカリキュラム（理論編・実践編・資料編）を作成し、提示する。

2 研究内容と方法

- (1) 中学校キャリア教育モデルカリキュラム試案に基づく授業実践
- (2) 中学校キャリア教育モデルカリキュラム試案に基づく授業実践例の収集と分析，検討
- (3) 小・中学校キャリア教育モデルカリキュラムの妥当性の検討と作成
- (4) 小・中学校におけるキャリア教育の推進に関する研究のまとめ（質問紙法）

3 研究協力校

花巻市立湯口中学校

研究結果の分析と考察

1 小・中学校におけるキャリア教育の推進に関する基本構想（第1年次研究の概要）

本研究でとらえた、キャリア教育とは、「児童生徒一人一人が、社会の中での役割や生き方を展望し、実現を図るために必要な意欲や能力を育てること」である。

このキャリア教育は、特別活動や総合的な学習の時間だけで行うのではなく、各教科や道徳においても取り上げたり関連させたりするなど、児童生徒が行う全ての教育活動をとおして推進していかなければならない。

そこで、キャリア教育の実践上のポイントや指導の方向性、具体的な実践事例を示したモデルカリキュラムを提示することとした。第1年次の研究を基にした提示までの流れを【図1】に示す。

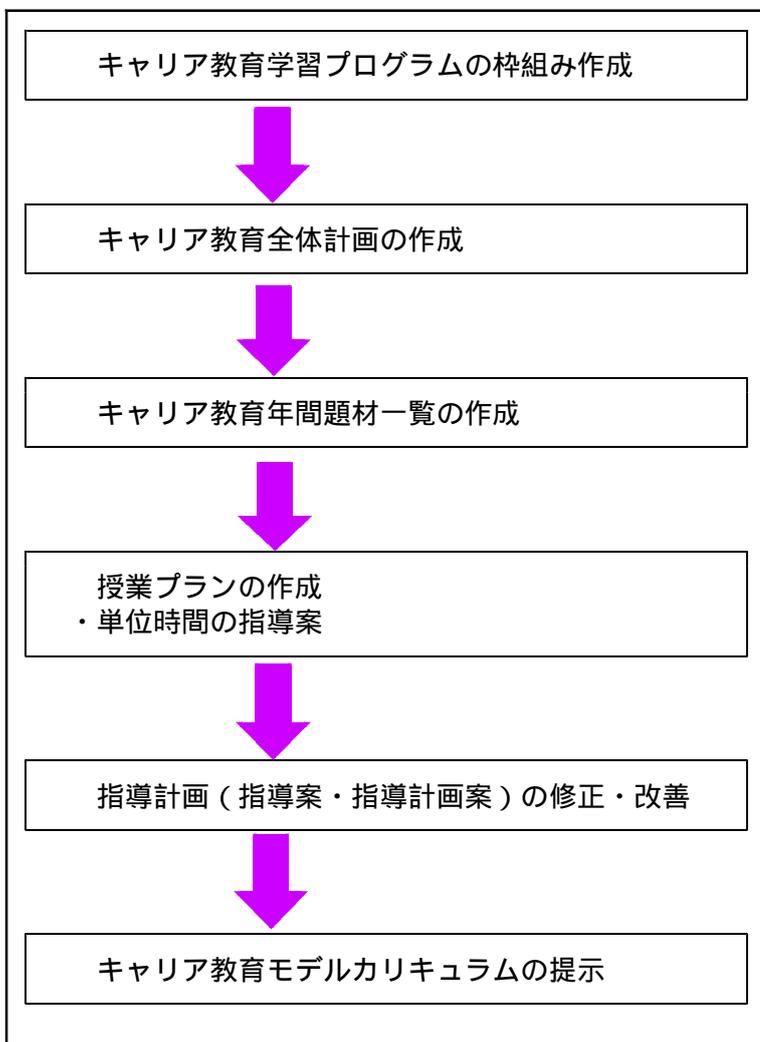
(1) キャリア教育学習プログラムの枠組み

「キャリア教育学習プログラムの枠組み」とは、3頁【図2】に示す児童生徒の職業的発達段階に応じ、キャリア教育において培う能力や態度を具体的に示したものであり、キャリア教育全体計画を編成する際の基となるものである。

平成20年度の作成に当たっては、平成18年度当センターで作成した「学習プログラムの枠組み例」の形式、内容を参考にする。

(2) キャリア教育全体計画

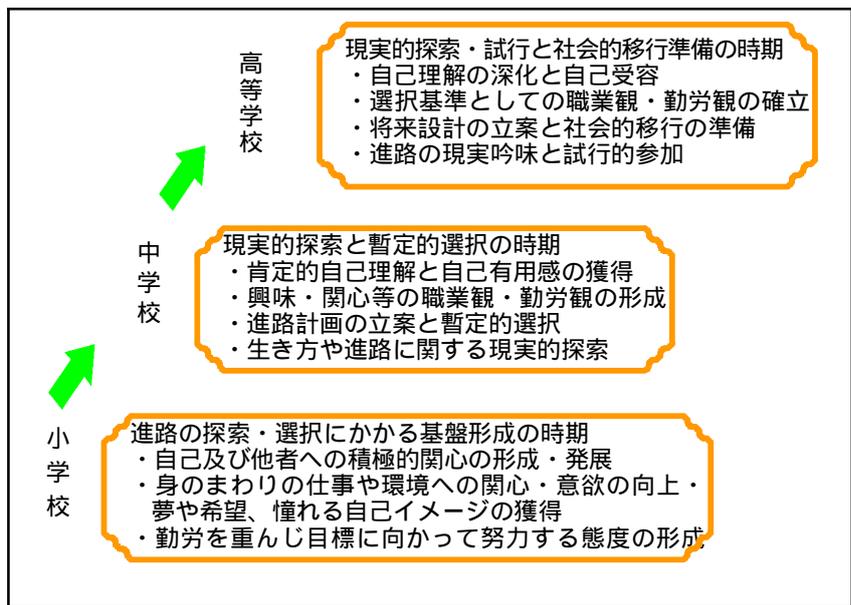
キャリア教育の学校教育における位置付けを明示し、組織的・計画的なキャリア教育を展開するための計画である。この全体計画を作成することによって、学校教育の目標実現に当たり、教育課程のどの教科や領域で何を行うかなどの基本的な考え方が明らかになる。



【図1】キャリア教育モデルカリキュラム提示までの流れ

(3) キャリア教育年問題材一覧

キャリア教育学習プログラムの枠組みとキャリア教育全体計画を基に、八つの具体能力を既存のどの体験活動で育成するか、どの教科・領域指導と関連させるかを示したものが、キャリア教育年問題材一覧である。キャリア教育は、学校の全教育活動をとおして行われるものであり、これまでも無意識のうちに指導されてきたものである。具体的な体験活動や教科・領域を年間



【図2】児童生徒の職業的発達の段階

問題材一覧に位置付け整理し、系統化することによって、教育課程の中で育成できる能力が見えてくる。同時に学校教育では育成しきれない能力も見えてくる。地域・家庭とどのように連携を図り、キャリア教育を推進していくかを考える手がかりとなる。

(4) 授業プラン

キャリア教育の授業を行うに当たっては、指導者が、どのような力をどのように生徒に育成していくか、指導目標（内容）及び指導方法を明確に押さえておくことが重要である。その上で、以下の点について工夫をしていく。

多様な学習活動を工夫する

生徒が自主的・実践的な活動を通じて学ぶことができるように、多様な学習活動を工夫する。多様な学習活動とは、体験活動・話し合い活動・調査活動・表現活動等である。

家庭や地域・関係諸機関との連携を図る

家庭や地域・関係諸機関との連携を図った活動を取り入れることによって、生徒の学習への意欲が高まり、仕事や働くことについて主体的に学ぶことができる。また、様々な人々の生き方に直接触れることが、自分の生き方を考えることにつながっていく。その際、学校での学びと社会との接続がスムーズに行われるように配慮する必要がある。

事前・事後の活動を重視する。

キャリア教育の目的を実現するために、事前と事後の活動を含めた一連の流れの中で指導する。事前の活動では、生徒自身が活動の目標や目的・方法・見通し等をもてるようにする。事後では、活動の目標に照らし合わせて、一連の活動を振り返らせながら適切な評価活動を行っていく。

キャリア教育は、学校教育全体を通じて展開されるものである。キャリア教育の視点から教科や領域との関連性を考慮し、組織的・計画的な指導を心がけていくことが重要である。キャリア教育の視点を教科や領域の指導にどのように関連させていくかを明確に定めておく必要がある。

小学校・高等学校との指導内容の接続や指導体制の連携を図る。

指導の系統性や一貫性を図り、キャリア教育の目的を実現する。そのために、中学校1学年

と3学年では、小学校と高等学校等との接続を図った指導を考慮する。小学校の教員との連携や卒業生を交えた授業など指導体制上の連携も図っていく。

2 中学校キャリア教育モデルカリキュラム試案に基づく授業実践（第2年次研究）

今年度、研究協力校が「キャリア教育」をテーマに校内研究を推進することになった。そこで、キャリア教育についての理解を深めるための校内研究会を定期的実施した。その中で、研究協力校に応じた独自の「キャリア教育学習プログラムの枠組み」「キャリア教育全体計画」「キャリア教育年間教材一覧」を作成することができた。作成した資料を基に、キャリア教育の視点を取り入れた特別活動の授業を実践することができた。

(1) キャリア教育学習プログラムの枠組みの作成

平成18年度当センターで作成した「キャリア教育学習プログラムの枠組み例」(【表1】)を参考にして、研究協力校の実態に合わせて作成したものが、5頁【表2】である。研究協力校では、進路発達にかかわる四つの諸能力をこれまでの自校の研究と絡めて、【表1】に示されている人間関係形成能力を【関わる力】、情報活用能力を【学ぶ力】、将来設計能力を【生き方を見つめる力】、意志決定能力を【判断する力】として示した。

【表1】キャリア教育学習プログラムの枠組み例

	小学校			中学校	高等学校
	低学年	中学年	高学年		
進路発達の期	進路の探索や選択にかかわる準備の基礎形成の期			生き方や進路の現実的な探索と暫定的な選択の期	進路の現実的な探索と将来への社会的な志向に向けた準備の期
進路発達課題 (進路、進路探索に関わる課題)	自分や他者への積極的な関わりと豊かな人間関係の構築 身の回りの仕事や働くことに対する関心と意欲の向上 将来の夢や希望、憧れのイメージを描く 目標に向かって主体的に努力する態度の形成			肯定的な自己認識の自己肯定の獲得 興味関心に基づいた職業観の形成 進路の探索と暫定的な選択 生き方や進路に関する現実的な探索	自己認識の深化と自己受容 選択基準としての職業観・職業観の確立 将来への立案と社会的な志向の準備 進路の現実的な選択や参加
進路発達にかかわる諸能力	進路発達を促すために育成する具体的能力・態度				
能力領域	具能力的				
【人間関係を構築する力】 他者の個性や考え方を認め、適切な人間関係を築くことのできる力 自己の個性や考え方を表現し、他者との関係を築くことのできる力	・基本的な挨拶や通称の使い分けができる ・友達と仲良く遊んだり、活動したりすることができる	・相手の意見をよく聞き、協同して取り組むことができる ・自分の考えや意見をもち、表現することができる	・他者よきと向き合い、進んで関わりあうことができる ・相手の考えや意見を聞き、集団で意思決定することができる	・人間関係の大切さを理解し、コミュニケーションスキルを基礎習得する ・リーダー、フォロワーの立場を体験し、目的や意見の対立を解決して進んでいくことができる	・他者の個性や個性を認め、場に応じたコミュニケーションを図ることができる ・リーダー、フォロワーシップを体験し、自己の個性やチームワークを高める
【進路の職業観を形成する力】 職業観の形成や意欲・理解 仕事や働くことへの価値の理解や意欲にかかわる能力領域	・職業観の大切さを理解し、自分の責任と果たすことができる ・職業観の形成や意欲・理解 仕事や働くことへの価値の理解や意欲にかかわる能力領域	・学生生活を支える人々の役割を知り、自らも働く責任を果たそうとする ・働くことの楽しさや喜び、進んでやる気や取組むこと、責任感があること、職業観の形成や意欲・理解	・社会生活に役立つ職業観の形成や意欲・理解 ・自分の進路選択や、進んで責任を果たそうとする ・職業観の形成や意欲・理解 仕事や働くことへの価値の理解や意欲にかかわる能力領域	・より、集団活動のための役割やその役割がわかる ・様々な職業の社会的役割や意義を体験し、自分の生き方を考えることができる ・職業観の形成や意欲・理解 仕事や働くことへの価値の理解や意欲にかかわる能力領域	・場に応じた自己の責任や責任を自覚し、責任を果たすことができる ・ライフステージに応じた個人的・社会的な責任を自覚する ・職業観の形成や意欲・理解 仕事や働くことへの価値の理解や意欲にかかわる能力領域
【生涯学習のイメージ形成】 将来の夢や希望、憧れの人生設計にかかわる能力領域	・学校や社会生活の中で、好きなものを見つけたら、興味関心を広げたいとすることができる ・職業観の形成や意欲・理解 仕事や働くことへの価値の理解や意欲にかかわる能力領域	・夢や希望を膨らませながら、自分の将来について考えることができる ・職業観の形成や意欲・理解 仕事や働くことへの価値の理解や意欲にかかわる能力領域	・憧れとする職業をも、学習することや自分のことを考える大切さを学ぶ ・職業観の形成や意欲・理解 仕事や働くことへの価値の理解や意欲にかかわる能力領域	・将来の夢や職業観を、職業観の仕事への関心・意欲を高める ・将来の進路選択に基づき、当面の目標を立て、その達成に向けて努力する ・職業観の形成や意欲・理解 仕事や働くことへの価値の理解や意欲にかかわる能力領域	・自己を生きる生き方や進路について、現実的に考えることができる ・職業観の形成や意欲・理解 仕事や働くことへの価値の理解や意欲にかかわる能力領域
【課題解決の能力・態度】 目標に向かって努力する態度の形成にかかわる能力領域	・基本的な学習態度を身に付け、身の回りのことに取り組むことができる ・目標を立て、その達成に向けて努力したり、適切な課題解決に取り組むことができる	・自分の生活の向上をめざして、目標を立て、その達成に向けて努力することができる ・職業観の形成や意欲・理解 仕事や働くことへの価値の理解や意欲にかかわる能力領域	・自分の生活の向上や将来の夢の実現を、目標とその実現方法を考え、主体的に努力することができる ・職業観の形成や意欲・理解 仕事や働くことへの価値の理解や意欲にかかわる能力領域	・自己課題解決の大切さを理解し、より、主体的な態度で取り組むことができる ・課題は積極的に関わり、主体的に解決しようとする ・職業観の形成や意欲・理解 仕事や働くことへの価値の理解や意欲にかかわる能力領域	・将来の進路の現実的な課題を認識し、その解決に向けた取組む ・自己を生きる生き方や進路について、現実的に考えることができる ・職業観の形成や意欲・理解 仕事や働くことへの価値の理解や意欲にかかわる能力領域

【表2】研究協力校のキャリア教育学習プログラムの枠組み

能力領域	具体能力	意味	職業的（進路）発達を促すために育成することが期待される具体的な能力・態度
【関わる力】 他者の個性を尊重し、自己の個性を発揮しながら、様々な人とコミュニケーションを図り、協力・協同してものごとに取り組む。	自他の理解能力	自己理解を深め、他者の多様な個性を理解し、互いに認め合うことを大切にして行動していく能力	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のよさや個性が分かり、他者のよさや感情を理解し、尊重する。 ・自分の言動が相手や他者に及ぼす影響が分かる。 ・自分の悩みを話せる人を持つ。 ・他者に配慮しながら、積極的に人間関係を築こうとする。 ・人間関係の大切さを理解し、コミュニケーションスキルの基礎を習得する。 ・リーダーとフォロアーの立場を理解し、チームを組んで互いに支え合いながら仕事をやる。 ・新しい環境や人間関係に適応する。
	コミュニケーション力	多様な集団・組織の中で、コミュニケーションや豊かな人間関係を築きながら、自己の成長を果していく能力	
【学ぶ力】 学ぶこと・働くことの意味や役割、個性を理解し、幅広く情報を活用して、自己の進路や生き方の選択に生かす。	情報収集・探索能力	進路や職業に関する様々な情報を収集・探索するとともに、必要に応じて進路や生き方を考えていく能力	<ul style="list-style-type: none"> ・産業・経済等の変化に伴う職業や仕事の変化のあらましを理解する。 ・上級学校・学科等の種類や特徴及び職業に求められる資格や学習歴の概略が分かる。 ・生き方や進路に関する情報を、様々なメディアを通して調査・収集・整理し活用する。 ・必要に応じ、収集した情報に創意工夫を加え、提示、発表、発信する。 ・将来の職業生活との関連の中で、今の学習の必要性や大切さを理解する。 ・体験等を通して、勤労の意義や働く人の様々な思いが分かる。 ・係・委員会活動や職場体験等で得たことを、以後の学習や選択に生かす。
	職業理解能力	様々な体験等を通して、学校で学ぶことと社会・職業生活との関連や、今となどを理解していく能力	
【生き方を見つける力】 夢や希望を持つて将来の生き方や生活を考え、踏まえながら、前向きに自己の将来を設計する。	役割把握・認識能力	生活・仕事上の多様な役割や意義及びその関連等を理解し、自己の果たすべき役割等についての認識を深めていく能力	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の役割やその進め方、よりよい集団活動のための役割分担やその方法等が分かる。 ・日常の生活や学習と将来の生き方との関係を理解する。 ・様々な職業の社会的役割や意識を理解し、自己の生き方を考える。 ・将来の夢や職業を思い描き、自分にふさわしい職業や仕事への関心・意識を高める。 ・進路計画を立てる意識や方法を理解し、自分の目指すべき将来を暫定的に計画する。 ・将来の進路希望に基づいて当面の目標を立て、その達成に向けて努力する。
	計画実行能力	目標とすべき将来の生き方や進路を考え、それを実現するための進路計画を立て、実際の選択行動等で実行していく能力	
【判断する力】 自らの意志と責任でよりよい選択・決定を行うとともに、その過程での課題や葛藤に積極的に取り組み克服する。	選択能力	様々な選択肢について比較検討したり、葛藤を克服したりして、主体的に判断し自らにふさわしい選択・決定を行っていく能力	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の個性や興味・関心等に基づいて、よりよい選択をしようとする。 ・選択の意味や判断・決定の過程、結果には責任が伴うことなどを理解する。 ・教師や保護者と相談しながら、当面の進路を選択し、その結果を受け入れる。 ・学習や進路選択の過程を振り返り、次の選択場面に生かす。 ・よりよい生活や学習、進路や生き方等を目指して自ら課題を見出していくことの大切さを理解する。 ・課題に積極的に取り組み、主体的に解決していくこととする。
	課題解決能力	意志決定に伴う責任を受け入れ、選択結果に適応するとともに、希望する進路の実現に向け、自らの課題を設定してその解決に取り組む能力	

(2) キャリア教育全体計画の作成

研究協力校のキャリア教育学習プログラムの枠組みを基に作成した全体計画は、6頁【図3】のとおりである。作成に当たり、以下の6点に留意した。

湯口中学校学校教育目標と目指す生徒像の育成に向けて、キャリア教育を位置付ける。	(【図3】の)
キャリア教育の目的と内容を押さえる。	(【図3】の)
キャリア教育学習プログラムの枠組みを基に、キャリア教育の指導目標に4領域8能力を位置付ける。	(【図3】の)
学年ごとに、4領域の指導目標を具体化して設定する。	(【図3】の)
キャリア教育を視点にした際の指導内容を列挙し、キャリア教育推進の方向性を示す。	(【図3】の)
学校教育を支える様々な組織・体制を、キャリア教育を推進していくための基盤として押さえる。	(【図3】の)

花巻市立湯口中中学校キャリア教育全体計画



【図 3】キャリア教育全体計画

(3) キャリア教育年問題材一覧

研究協力校のキャリア教育学習プログラムの枠組みとキャリア教育全体計画を基に、特別活動の年問題材をキャリア教育の視点で見直したものが、【表3】と8頁【表4】である。これらの題材一覧を作成することによって、それぞれの活動の中で育成できる進路発達にかかわる能力は何であることを明らかにすることができた。(【表3】と【表4】の点線で囲った部分)

【表3】特別活動等題材一覧

活動・行事・題材	学年	月	活動の主なねらい	進路発達にかかわる能力							
				他の理解能力	コミュニケーション能力	情報収集能力・探索能力	職業理解能力	役割把握・認識能力	計画実行能力	選択能力	課題解決能力
学校行事	1学期始業式	4	進級の喜びを感じ、新学年での学校生活における期待と目標をもつ。					☆	☆		
	入学式	4	新入生の入学を互いに喜び合い、新しい学校生活における夢や希望をもつ。					☆			
	交通安全教室	4	正しい交通安全の仕方を知り、自らの身を守る安全意識を高める。							☆	
	修学旅行	3	4	社会のルールを学ぶとともに、見聞を広げたり、課題を追究したりする力を高める。	☆	☆		☆	☆	☆	☆
	体育祭	4	体育祭の目標を立て、その実現に向かって努力できる。	☆	☆			☆	☆	☆	☆
	市中総体	6			☆	☆			☆		☆
	1学期終業式	7	1学期の学校生活での成果と課題を振り返り、夏休みに向けての目標をもつ。	☆	☆				☆		☆
	2学期始業式	8	新学期に臨む意欲と目標をもつ。	☆					☆		☆
	市陸上	8	目標をもって、応援や競技に力を発揮できる。	☆	☆				☆	☆	☆
	中学生団体鑑賞	9									
	市新人戦	9			☆				☆		☆
	若杉祭	10	目標をもって活動に取り組み、創造力や表現力を高める。	☆	☆	☆			☆	☆	☆
	ジョイント合唱交流会	11									
	市中文連総合文化祭	11									
	2学期終業式	12	2学期の学校生活での成果と課題を振り返り、冬休みに向けての目標をもつ。	☆						☆	☆
	生徒会活動	3学期始業式	1	これまでの学校生活の反省を生かしながら、新学期に臨む意欲と目標をもつ。	☆					☆	☆
終了式		3	一年間の自らの努力と成長に自信をもち、次年度への期待と目標をもつ。	☆					☆	☆	
卒業式		3	3年生の卒業を互いに喜び合い、それぞれ、新しい生活への期待と目標をもつ。	☆	☆				☆	☆	
生徒会オリエンテーション		4	新入生の入学を全校で喜び、その気持ちをそれぞれの立場で意欲的に表現する。	☆	☆				☆	☆	☆
クラブ	応援歌練習	4							☆		
	生徒総会	5	学校生活のよりよい充実のために、仕事や役割を考え、進んで話し合う。						☆	☆	☆
	校内球技大会	9	大会の目標を立て、その実現のために互いに協力しながら努力できる。	☆	☆				☆		☆
	三送会	3	互いに感謝の気持ちを感じ合い、それぞれの学年で協力し合いながらその気持ちを表現できる。	☆	☆				☆		☆
	委員会活動	通年	所属する委員会や自分の仕事の役割を考え、主体的に活動に取り組むことができる。	☆					☆		
日常生活	部活動										
	校外班集体会										
	部集會										
	日直当番		責任をもって役割を果たすことができる。						☆		
	係活動		学級生活における仕事の役割を考え、主体的・創造的に活動できる。						☆		
	全校朝会		学習意欲を高めたり、規律ある集団行動や表現力を身に付けたりする。								
	生徒朝会		自己の役割を自覚して集會に臨み、主体的な表現活動ができる。							☆	☆
	清掃活動		清掃活動の意義を知り、進んで仕事に取り組み、働くことの喜びに気付く。						☆	☆	
給食活動		当番の仕事を着実に果たしたり、食事をとおして友だちとの交流を深めたりする。	☆					☆	☆		
ラインテープはずし	2	自分の役割を理解し、協力し合いながら、意欲的に清掃に取り組むことができる。	☆					☆			
体育館ボックス塗り	3	自分の役割を理解し、協力し合いながら、意欲的に清掃に取り組むことができる。	☆					☆			

【表4】第1学年学級活動年間題材一覧

題材名	学習指導要領の内容	指導のねらい	進路発達にかかわる能力						
			自他の理解能力	コミュニケーション能力	情報収集能力・探索能力	職業理解能力	役割把握・認識能力	計画実行能力	選択能力
4	・中学生になって ・生徒会活動のしくみを知る ・学級組織づくり	・学級のスタートに当たって意欲的な中学校生活が送れるように決意と希望を持たせる。 ・生徒手帳を参考に生徒会の仕組みと運営について学習する。 ・学級役員に積極的に立候補させ自治的生活の芽を育てる。						☆	★
5	・望ましい学習方法 ・中学生の生活 ・楽しい給食	・学習のしおりを参考に自ら進んで学習する態度を育てる。 ・授業の受け方、家庭学習の取り組みについて意欲化を図る。 ・楽しい給食ができるように準備とその手順について考える。			★			☆	☆
6	・健康と体力作り ・私の特色 ・部活動への参加	・体力の増進や望ましい生活習慣づくりについて理解を深める。 ・自分についての理解の手順や方法について考えさせる。 ・部活動の意義について考え積極的に参加する意欲を持たせる。	☆	☆	★				
7	・一学期の反省 ・係班の活動反省 ・夏休みの生活設計	・出発の際の決意と生活の実態から計画を実行に移す場合の障害となったものは何か考えさせる。 ・班の活動が活発であるか、また、その活動に対して意見を出しているか反省をさせる。 ・目標をきちんと持たせ、計画的な学習と生活設計を立てさせる	★				☆		
8	・夏休みの取捨 ・二学期の計画	・自分で考えて計画したことが実行されたか、課題は何か、取り組みの過程を明らかにしながら、次のステップに生かすようにする。 ・一学期の反省をもとに学級としてどう課題に迫るか、個人としても改善の方策を立てさせる。	☆					★	☆
9	・球技大会にむけて ・進路の計画	・規則を守り互いに協力して責任を果たす活動をさせる。 ・将来の職業とそれを実現するために計画が必要であることがわかる。			★		☆		
10	・若杉祭の取り組み	・自分の夢を語らせ、その実現のために自分はどうしたら良いか考えさせる ・今までの学級の取り組みを生かし、より学級が回結する取り組みを考えさせる。	☆				☆	☆	
11	・若杉祭の反省 ・進路と学習	・学級の総力を結集して協力できたか、そこから教訓と課題を明確にさせる。 ・希望達成のために学習をどう進めたらよいか、毎日の授業参加の方法を見直させる。						☆	★
12	・本に親しむ ・二学期の反省 ・冬休みの計画 ・冬の健康	・読書の喜びを交流し合い読書への関心を高める。 ・自分の計画が実行できたか、計画的な生活が送れたか、生活全般について反省させる。 ・夏休みの反省をもとに、実行可能な計画を立てさせ自主的な生活を送らせる。 ・冬期間の健康管理と積極的な体力づくりへの関心を高めさせる。	☆					☆	★
1	・新年を迎えて ・冬休みの反省	・新年への抱負を持たせ向上への意欲を高めさせる。 ・目標が達成できたか、課題は何か、一人一人明確にさせる。	☆					☆	★
2	・いろいろな悩み ・文集づくり ・自分と進路	・いろいろな悩みの解決方法を知り、積極的に相談を受ける態度を養う。 ・一年間の思い出を文集にまとめ、学級の足取りをまとめる。 ・今までの進路の学習を通してこれからの進路をより明確にさせる。	☆	★				☆	
3	・学年の反省 ・新学年への抱負	・一年間の生活を反省させ、今後の正しい生活の在り方を考えさせる。 ・一年間の反省をもとに二年生としての心構えを持たせる。	☆					☆	★

★は重点項目

3 中学校キャリア教育モデルカリキュラム試案に基づく授業実践例の収集と分析・検討

(1) 授業プランの作成

授業プランとは、キャリア教育の視点を取り入れた授業を行うために、指導者がどのような力をどのように生徒に育成していくか、指導目標(内容)及び指導方法等を明確にしたものである。この授業プランをまとめたものが指導案や指導計画案である。作成に当たっては、次の点に考慮する必要がある。

キャリア教育の視点を取り入れることのできる題材を考えること。
 指導構想を練る際には、事前・事後のつながりまで目を向けること。
 全体計画と題材一覧に沿って指導目標・指導計画を考えること。

(2) 授業プランの実際と分析・検討

研究協力校が作成した特別活動の指導案を、キャリア教育の視点で検討した。
 その観点は、次の五つである。検討した指導案は、【資料1】のとおりである。

ポイント	キャリア教育の4領域8能力の視点を取り入れながら、題材の価値を考えているか。
ポイント	題材とキャリア教育とのかかわりが明確になっているか。
ポイント	「4領域8能力との関係」と「他の題材との関連」を明確にし、系統的に指導できるように構想しているか。
ポイント	指導目標・計画は、キャリア教育全体計画の育てたい力を具現化するものになっているか。
ポイント	本時の目標は、題材の指導目標を焦点化するものになっているか。

【資料1】検討した指導案

第1学年 特別活動 学習指導案

1 題材名「自分を知る、友達を知る」

2 題材設定の理由

(1) 題材について

中学校特別活動の目標は「望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。」である。集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築いていくためには自分をよく知るということが必要不可欠である。また、自分の能力や適性など自己理解を進めていくことは進路の学習を進めていく上でもとても重要である。普段生活をしている中で自分の個性を振り返る場面は生徒の生活を見ているとあまり感じられない。そこで改めて自分の持っている能力や特徴に目を向けることで普段意識しなかった「自分の個性」を知り、良いところや改めていくところを考え、自己を高める意欲付けができればと考える。

さらに級友の個性にも目を向け、集団の中でお互いの個性を認め合い、役割を分担し協力して生活していくことで、集団や個を高めて行こうとする姿勢を育てていきたいと考え、この題材を設定した。

ポイント

キャリア教育の視点を念頭に置き題材の価値を考える

地道な努力が社会的な成功に必ずしも結びつかないといった風潮がある中で、自己実現に向け、自分を高めていこうとする意欲を持ち続けることは容易なことではない。このような思いを抱きがちである中学校1年生の生徒に、「動き出すことで自分が変わること」「自分を高めていこうとする意識をもたせること」は、大切なことである。そのためには、自分を知り、自分のよさを生かしながら、課題に対して見通しを立てて計画的に取り組んだり、なかなかうまくいかなくてもあきらめずに最後までチャレンジしたりする力をつける必要がある。また、友達のよさも知り、お互いに支え合い高め合うことも必要である。なぜなら、自分の感情や考えを素直に伝え、相手を理解すること、協力して活動することは、将来の社会生活、職業生活において欠かすことのできないものだからである。よって、自他の理解をうながすこの題材は、キャリア教育に視点に当てはまる適材である。

(2) 生徒の実態(略)

ポイント

「本題材とキャリア教育のかかわり」という項目を設定する。

(3) 本題材とキャリア教育の関わり

本題材では、「人間関係形成能力」の中の「自他の理解能力」に焦点を当て、学習を進めていく。まず自分の個性に目を向ける。そのために「自己分析チェック」を行い、いろいろな視点から改めて自分にどんな個性があるか知る。さらにそれをまとめていくことで自己理解を深める。次に他の人の個性に目を向け、いろいろな個性や適性や価値観があることを知り、その上でお互いを認め合い協力していこうとする意欲や態度を育てていく。

ポイント

指導構想を練る

「自己理解」に関する学習を進める際、大切なことは次の2点である。
 ・一人一人の生徒が、自己を肯定的にとらえることができるようにする
 ・他からの評価を受け止め、自分を客観視できるような目をもたせること
 そのためには、他の題材との関連を考慮し、系統性に指導を構想しなければならない。



3 指導目標

- (1) 自分が持っている適性や個性に目を向け、その個性を伸ばそうとする意欲を持つ事ができる。
- (2) 他者の適性や個性を知り、いろいろな個性があることを認め合う事ができる。
- (3) 集団の中で自分の役割を自覚し、協力していこうとする姿勢をもつ事ができる。

4 指導計画（全2時間）

- (1) 自分を知るための視点や方法を知り、自分を知る（1時間、本時）
- (2) 他者の個性に目を向け、いろいろな個性や価値観があることを知り、お互いを認め合いながら協力していこうとする（1時間）

5 評価

本題材では「人間関係形成能力」を主に、「将来設計能力」「意志決定能力」において以下の項目を評価の観点として生徒の成長をとらえていく。

人間関係形成能力	情報活用能力	将来設計能力	意志決定能力
自分の良さや個性が分かり、他者の良さや個性を理解しようとする。	ポイント	自分の役割やその進め方、よりよい集団活動のためのその方法等を考えようとする。	自己の個性や興味・関心に基づいてよりよい選択をしようとする。

学校の全体計画と摺り合わせ、指導目標・評価を見直す

本題材は、キャリア教育学習プログラムの枠組みにおける、領域「人間関係形成能力」の「自他の理解能力」に焦点を当てている。この「人間関係形成能力」は、他者の個性を尊重し、自己の個性を発揮しながら、様々な人々とコミュニケーションを図り、協力・協同して物事に取り組むことをめざすものあり、研究協力校においては「関わる力」としてとらえられている。本単元における指導目標(1)(2)(3)は、キャリア全体計画の「関わる力」のめざす内容を受けて設定されたものである。したがって、評価もこの域を外れてはならない。しかし、本指導案では、将来設計能力や意志決定能力まで評価の観点として挙げられている。2時間の指導時間で、様々な観点を評価することは容易ではない。学校全体計画、学級活動単元一覧表と照らし合わせて、評価の観点を絞る事が、指導内容の焦点化につながる。

関わる力《自他の理解能力》

【自他の良さや個性が分かるとともに、他者の良さや感情を理解し、尊重しようとする。】

自分の特色を知るための方法を	友だちの良さを見つけることができる。	自分の特色について考えを整理することができる。
----------------	--------------------	-------------------------

ポイント

6 本時の構想

(1) 本時のねらい

ア いろいろな視点で自分を見つめることで自己理解を深める。【人間関係形成能力】

イ 自分の個性を知り伸ばそうとする意欲をもつ。【将来設計能力・意志決定能力】

段階時間	学習内容	生徒の活動	指導上の留意点・評価
導入 10分	1 先生が話すイメージから誰のことを話しているのかをあてるクイズを行う。	答えを発表する。 ・人にはいろいろな個性があることに気づく	クイズを行い、他の人の特徴からその人がわかるということに気づかせ、自分の個性に目を向けさせる。
展開 30分	2 自分の個性を知る方法を知る。 3 自己分析チェック表の質問事項に答えながら自分の個性を考える。	自分の個性を知るための方法の説明を聞く。 自己分析チェックを行う。	自分の個性を知る方法をいろいろ上げ、1つの方法として自己分析チェックを紹介する。自分自身をよく見つめ、できるだけ客観的にとらえるよう説明する。

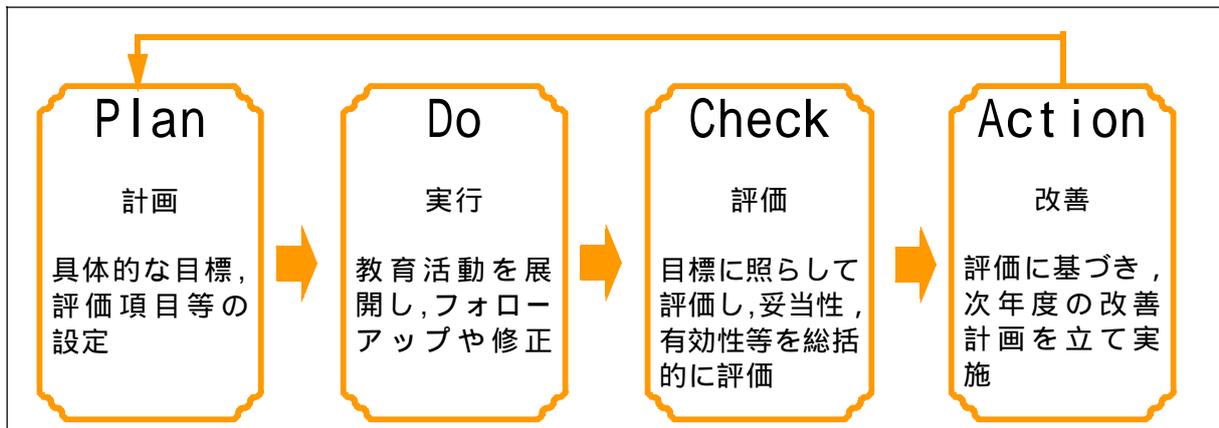
4 キャリア教育の評価

評価は、年度を超えて教育活動を接続するための大切な営みである。マネジメント・サイクルとして、計画（Plan）を実行（Do）し、評価（Check）して改善（Action）に結び付けるPDCAサイクルが提案されているが、学校運営・教育活動において有効であると考えられていることから、本研究においてもこのサイクルを取り入れることとした。

キャリア教育の評価について、文部科学省「キャリア教育推進の手引」には、以下のように記載されている。

- ・キャリア教育の目指す目標が、具体的で明確であること
- ・目標が各学校や児童・生徒の実態に応じて、実行可能な内容であること
- ・教員がキャリア教育の意義と実践への計画、方法等を十分理解できていること
- ・教育活動の実行に際し、児童生徒にどのような変化や効果が期待されるか等が、具体的に示されていること
- ・評価方法等が適切に示されていること
- ・教員が、評価の目的、方法などについて理解し適切に評価できる能力を有すること
- ・キャリア教育の推進体制が確立されていること

これを受け、具体的には次のように進める。まず、計画（Plan）の段階で、学校や生徒の実態に応じて、具体的な目標や評価項目など1年間の計画を立案する。次に、実行（Do）の段階で、立案した計画に基づいた教育活動を行い、その中で生徒の変化を形式的に評価する。そして、評価（Check）の段階で、計画に基づいた教育活動や設定した能力・評価・方法などが適切であったかを総括的に評価する。その際、取組状況や校内研修の在り方等について「チェックシート」などを作成し、点検していくことも一方法である。最後に、改善（Action）の段階で、評価に基づき生徒の実態・活動の在り方、教育組織などを見直し、次年度の改善計画を立てる。この評価のPDCAサイクルを【図4】に示す。



【図4】PDCAサイクル

研究協力校においては、昨年度に作成していた「キャリア教育全体計画」を計画（Plan）の段階で見直して修正を加え、6頁【図3】のように作成した。また、この段階で、7頁【表3】と8頁【表4】の「題材一覧」も作成した。実行（Do）の段階では、活動時の生徒の様子や生徒が記述したワークシートなどから変化を読み取るようにした。

5 中学校キャリア教育モデルカリキュラムの作成

(1) 中学校キャリア教育モデルカリキュラム作成の意図

キャリア教育は、これまでの実践を小学校から高等学校までの12年間の中で位置付けて見直し、整理することから始まる。しかし、このことを校内の全教職員が共有し認識することは難しい。キャリア教育を始めようとする多くの学校での疑問は、「なぜキャリア教育が必要なのか」「自分たちのやろうとしていることは本当にキャリア教育に当たるのだろうか」である。これは、キャリア教育推進の基盤となる全体計画等のカリキュラムや教育課程のどこで、どのような指導を行うか等具体的な例が示されていないため、何か新しいことを始めるという感覚に陥ってしまうことに要因があると考えられる。

そこで、各校のキャリア教育推進を支援するため、キャリア教育の指導の方向性・具体的な実践事例や実践上のポイント等を示した「中学校キャリア教育モデルカリキュラム」を作成する。この「中学校キャリア教育モデルカリキュラム」は、各校の推進をより具体的に支援できるように参考資料等も含め、『「中学校キャリア教育」実践の手引き』（別冊）として提示する。

(2) 中学校キャリア教育モデルカリキュラムの構成と項目

中学校キャリア教育モデルカリキュラムは、キャリア教育の理解を図ることを目的とした「理論編」、キャリア教育の実践を支援することを目的とした「実践編」、キャリア教育の参考となる「資料編」の三編構成とする。

各編ごとの項目は、以下のとおりである。

《理論編》

キャリア教育について理解しましょう

- Q 1 キャリア教育とはどのような教育ですか？
- Q 2 キャリア教育はどうして必要なのですか？
- Q 3 キャリア教育ではどのような力を育成すればよいのですか？
- Q 4 進路指導とキャリア教育はどう違うのですか？
- Q 5 キャリア教育を進める上で、どのような点を注意すればよいのですか？
- Q 6 小学校と中学校の連携はどのように図ればよいのですか？



《実践編》

キャリア教育を実践しましょう

- 1 キャリア教育推進の手順
- 2 キャリア教育全体計画の作成手順
- 3 キャリア教育全体構想表の作成手順
- 4 キャリア教育の視点を取り込んだ学習指導案の作成
- 5 キャリア教育の評価



《資料編》

キャリア教育に関する参考資料

6 中学校キャリア教育モデルカリキュラムに関するアンケート調査の分析と考察

(1) 調査の目的と内容

提示した中学校キャリア教育モデルカリキュラムの内容の妥当性と中学校においてキャリア教育を推進する上での課題点を明らかにするために、研究協力校の教師へのアンケート(評定尺度法と自由記述法の併用)調査を行う。アンケートの設問内容と設問意図は、【表5】のとおりである。

【表5】アンケート調査の内容と設問意図

設問内容		設問意図
1	『「中学校キャリア教育」実践の手引き』から、キャリア教育の具体的なイメージをもつことができたか	モデルカリキュラムの内容検証
2	キャリア教育の授業を行う際の手順や留意点を理解できたか	
3	『「中学校キャリア教育」実践の手引き』で気付いた点、意見、感想等	
4	キャリア教育を推進する上での問題や課題は何か	課題把握(現状)
5	各中学校においてキャリア教育を推進する上でのポイントは何か	課題把握(今後)

(2) アンケート調査の分析と考察

ア モデルカリキュラムの内容について

モデルカリキュラムの内容に関する調査結果を、14頁【表6】にまとめた。

『「中学校キャリア教育」実践の手引き』から、キャリア教育の具体的なイメージをもつことができたか、という設問に対して、5名中4名の教員が具体的なイメージを大体もつことができたと回答している。同様に、キャリア教育の授業を行う際の手順や留意点を理解できたかという設問に対して、5名中4名の教員が大体理解できた回答している。

自由記述においては、Q & A形式の解説により内容が理解しやすいこと、根拠となる資料が添付されていること、文字情報量が適切であることなどの回答をいただいた。このことから、キャリア教育の理論に適した内容であったととらえる。

また、キャリア教育を実践するための手順が、順を追って説明されているため、計画を作成したりや構想を練ったりする上で参考になること、教科や領域等との関連が分かり、キャリア教育を行う上で、重荷にならないアプローチがされていることの回答をいただいた。このことから、キャリア教育の実践に適した内容にあったととらえる。

以上のことから、モデルカリキュラムの内容は妥当であったととらえる。

【表6】モデルカリキュラムの内容に関する回答

n = 5						
(は, できた。 は, 大体できた。 は, あまりできない。 ×は, できない。 単位: 人)						
設問内容				×	回答理由	
1	『「中学校キャリア教育」実践の手引き』から, キャリア教育の具体的なイメージをもつことができたか	1	4	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・ Q & A になっているのがよい。また, 根拠となる資料が添付されている。 ・ 文字情報量が適切で読みやすい。
2	キャリア教育の授業を行う際の手順や留意点を理解できたか	1	4	0	0	記述なし
3	『「中学校キャリア教育」実践の手引き』で気付いた点, 意見, 感想等 	[自由記述]				<ul style="list-style-type: none"> ・ 順を追って説明されており, 計画作成や構想を練る上で, とても参考になる。 ・ 教科や領域等との関連が分かり, キャリア教育を行う上で, 重荷にならないアプローチがされている。 ・ 小中連携の具体例がほしい。 ・ 家庭との連携の具体例がほしい。 ・ 文章表現で具体的に伝わらないところや分かりづらい表現があった。

イ キャリア教育を推進する上での課題点について

キャリア教育を推進する上での課題点を, 15頁【表7】にまとめた。

課題点として最も多く挙げられた項目は, 「キャリア教育を位置付ける適切な教育課程を整備すること」であった。このことから, キャリア教育全体計画や年問題材一覧等の整備が不十分であったり, 整備されていても組織的・系統的な推進が行われていなかったりしていることがうかがえる。次に, 多く挙げられた項目は, 「教科, 道徳等, 通常の授業の充実の方が大切である」であった。このことから, キャリア教育の必要性を理解しているものの, 学校の実態を考えると優先順位が教科や領域にあることがうかがえる。また, 体験活動等の時間確保についても課題になっていることが分かった。

推進する上でのポイントとして, 最も多く挙げられた項目は, 「キャリア教育の具体的な内容や方法の理解」であった。次に, 多く挙げられた項目は, 「保護者・地域との連携」と「日々の日常活動におけるキャリア教育の推進」であった。

以上のことから, キャリア教育を推進していくためには, モデルカリキュラムの他に実践をイメージできる具体例を提示していかなければならないことが示唆された。

【表7】キャリア教育推進上の課題

n = 5 (複数回答可)

設問内容		回答(複数回答)	人
4	キャリア教育を推進する上での問題や課題は何か	・キャリア教育の具体的な内容や方法がわからない	1
		・キャリア教育のカリキュラム(指導計画)が無い	1
		・キャリア教育を位置付ける適切な教育課程が整備されていない	3
		・教科, 道徳等, 通常の授業の充実の方が大切である	2
		・他に重点的に取り組むべき課題がある	1
		・その他	2
【その他】の記述内容			
・キャリア教育には体験活動が重要だと思うが, 総合的な学習の時間が新学習指導要領においては削減されるので, どう充実させていけばよいのか分からない			
設問内容		回答(複数回答)	人
5	各中学校においてキャリア教育を推進する上でのポイントは何か	・キャリア教育の内容・方法等に関する理解	4
		・保護者・地域との連携	3
		・職場体験・職場訪問の実施	1
		・適切な評価	1
		・キャリア教育題材の開発	1
		・キャリア教育指導計画の作成	2
		・具体的な授業プランの作成	2
		・日々の日常活動におけるキャリア教育の推進	3
		・キャリア教育の視点を位置付けた教科, 道徳, 特別活動, 領域等の授業推進	2

7 小・中学校におけるキャリア教育の推進に関する研究のまとめ

本年度の目標は, 第1年次の研究を基に授業実践を行い, その分析と検討をとおして, 中学校キャリア教育モデルカリキュラム(理論編・実践編・資料編)を作成し, 提示することであった。

その成果と課題について以下にまとめる。

(1) 成果

各校のキャリア教育推進を支援する資料として, キャリア教育の指導の方向性・具体的な実践事例・実践上のポイント等を示した中学校キャリア教育モデルカリキュラム(「中学校キャリア教育」実践の手引き)を作成することができた。

(2) 課題

キャリア教育のさらなる推進を図るために, 「保護者・地域との連携」「日々の日常活動」などに関する実践例を収集する必要がある。

以上のことから, 課題はあるものの本研究で作成した中学校キャリア教育モデルカリキュラムは, 小・中学校におけるキャリア教育推進に資するものであるととらえる。

研究のまとめ

本研究は、各校のキャリア教育推進を支援する資料として、指導の方向性・具体的な実践事例や指導計画、実践上のポイント等を示したキャリア教育モデルカリキュラムの提示を目指したものである。

2年次研究の第1年次である昨年度は、先行研究や文献等から学校教育におけるキャリア教育の意義や位置付けを検討し、「小学校キャリア教育モデルカリキュラム」の内容拡充を含めた中学校モデルカリキュラムの作成上の視点と方向性を明らかにした。

第2年次である今年度は、第1年次の研究を基に授業実践を行い、その分析と検討をとおして、中学校キャリア教育モデルカリキュラム（「中学校キャリア教育」実践の手引き）を作成し、提示した。

2年間の研究の成果と課題については、以下のようにまとめることができる。

1 研究の成果

(1) 小・中学校におけるキャリア教育の推進に関する基本構想の立案

主題にかかわる先行研究や文献等から、学校や社会の問題状況とキャリア教育の必要性を把握するとともに、中学校キャリア教育モデルカリキュラムを作成する意義を明らかにすることができた。また、キャリア教育を推進するための基本構想を立案することができた。

(2) 中学校キャリア教育モデルカリキュラムの作成に関する推進試案の作成

文献、先行研究から、キャリア教育における身に付けるべき能力・態度を組織的・系統的に培うための中学校キャリア教育モデルカリキュラムの作成に関する推進試案を作成することができた。

(3) 中学校キャリア教育モデルカリキュラムに基づく授業実践

中学校キャリア教育モデルカリキュラムに基づいて、キャリア教育の視点を取り入れた授業を行うことができた。

(4) 中学校キャリア教育モデルカリキュラムに基づく授業実践例の収集と分析、検討

研究協力校での授業実践を、キャリア教育の視点から検討し、モデルカリキュラムの内容を充実させることができた。

(5) 小・中学校におけるキャリア教育の推進に関する研究のまとめ

小学校から中学校までの、組織的・系統的なキャリア教育を推進するために、中学校キャリア教育モデルカリキュラムを作成することができた。

2 今後の展望

学校の中だけで、キャリア教育を推進していくことは非常に難しい。家庭や地域の協力はもとより、教育委員会や職場体験を受け入れる事業所との連携、高等学校との接続など、キャリア教育を支援する組織を設立していくことが望まれる。

おわりに

この研究を進めるに当たり、ご協力いただきました研究協力校の先生方、生徒の皆さんに心からお礼を申し上げます。また、研究協力員としてご協力いただきました先生方に感謝申し上げます。

【引用文献】

文部科学省（2004）, 『キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告』 pp.3 - 8

【参考文献】

小島貴子（2004）, 『子どもを就職させる本』, メディアファクトリー

上越市教育委員会・上越市キャリア教育研究推進委員会（2007）, 『上越市キャリア教育テキスト』

上越市立城北中学校（2008）, 『教育計画』

仙崎武・波場望・宮崎冴子（2002）, 『21世紀のキャリア開発』, 文化書房博文社

前川岳詩（2006）, 『将来を見つめ自らの生き方を考える力を育てる小学校キャリア教育の推進に関する研究』, 岩手県立総合教育センター

三村隆男（2004）, 『キャリア教育入門 その理解と実践のために』, 実業之日本社

三村隆男（2004）, 『はじめる小学校キャリア教育』, 実業之日本社

文部科学省（2005）, 『職場体験ガイド』

文部科学省（2006）, 『小学校・中学校・高等学校 キャリア教育推進の手引』

吉田辰雄（2005）, 『キャリア教育論 進路指導からキャリア教育へ』, 文憲堂